

ベトナム 少数民族の教育課題

角銅、下村、ソーニャ、土方、藤本

目次

1、背景調査

- ベトナムの教育概観
- 問題意識、リサーチテーマの設定
- 訪問対象機関

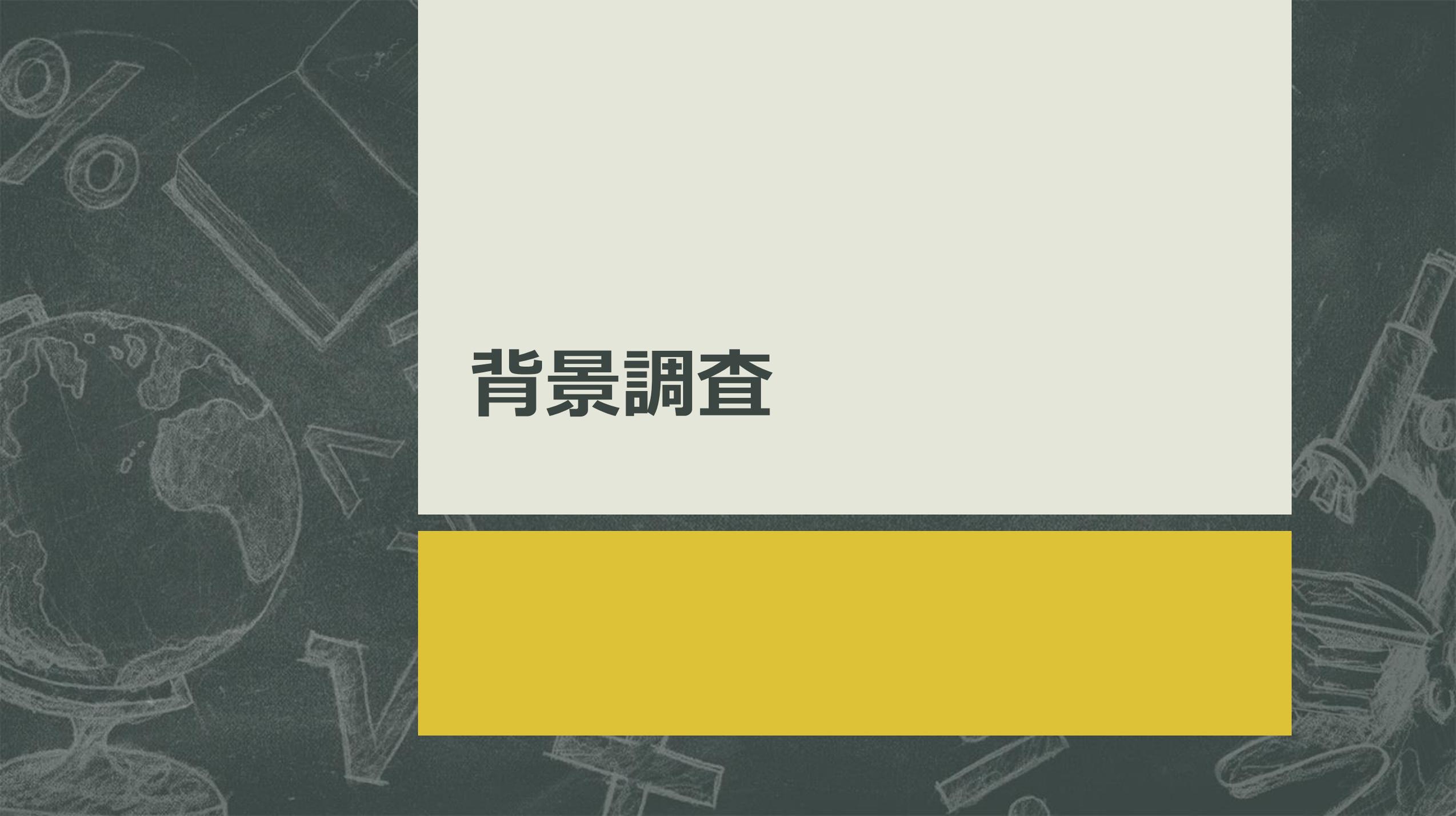
2、要因分析①（ハード）

- アクセス
- 学校
- 教材

3、要因分析②（ソフト）

- 家庭環境
- 言語問題
- 教員

4、子供たちの将来



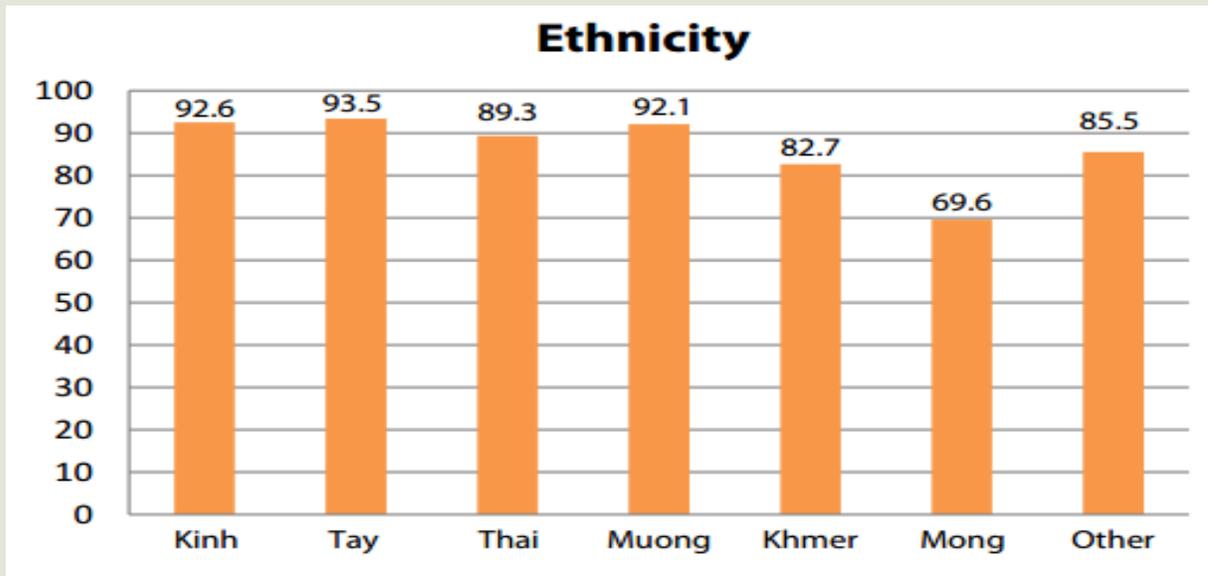
背景調査

ベトナムの教育概要

- 就学率 99% (初等教育)
- 修了率 99% (初等教育)
- 識字率 97%
(15~24歳対象)
- 教育制度 5・4・3・4制
- 義務教育 6歳~15歳
(初等教育5年と中等教育4年)
- 5月下旬~9月まで長期休暇

(ユニセフ世界子供白書2015参照)

教育における問題点 ～少数民族～



グラフ：民族ごとの就学率

出展：ユニセフ資料

- 都市部と農村部、とくに少数民族が多く住む山岳地域との格差が拡大している
- 少数民族は小学校までしか通えていない
- 将来の選択肢も従来の農業以外ほとんどない

問題意識

- ベトナムは全体としての教育水準は高いと言える
 - しかし、**少数民族**は就学率などで劣っている
 - どういったことが要因になっているのか？
- それに対してどういったアプローチをとっているのか？

要因分析 問題点とアプローチを分けて話す

ハード

1. アクセス
2. 設備
3. 教材・文具

ソフト

1. 家庭環境
2. 言語問題
3. 教員

NGO紹介

- Plan JAPAN

教育環境などのハード面から教員や子供についてのソフト面まで幅広く活動しているNGO。

他にも栄養改善プロジェクトなど幅広く手を広げている。

- UNICEF

言語問題について、少数民族の言語と

ベトナム語のバイリンガル教育という対策を行なっている。



NGO紹介

- Sapa Ochau

トレッキングや工芸品などから出た利益を
学校建設や教科書購入にあてている。

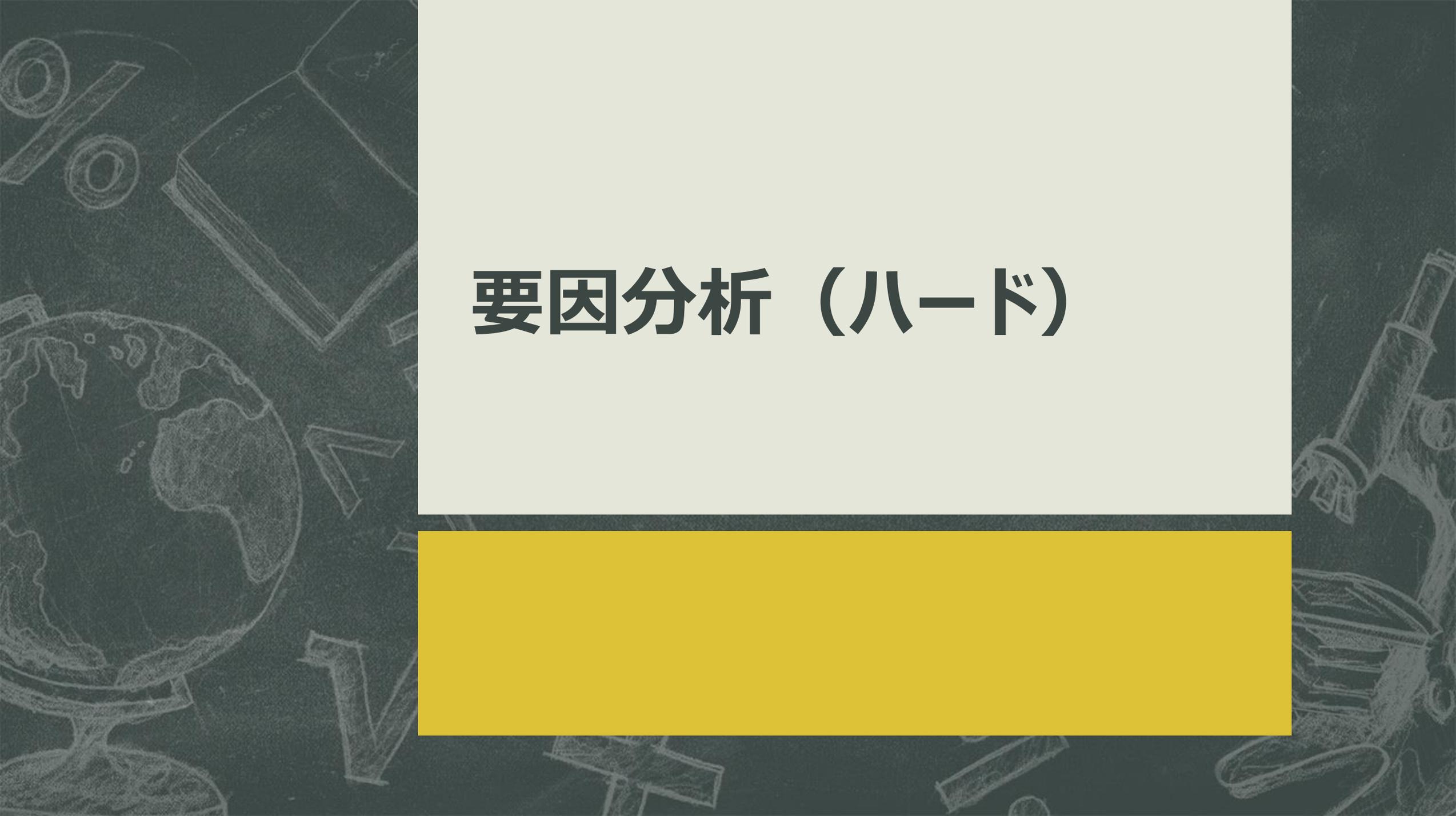


- Seed to Table

主な活動は農業だが、現地の少数民族と
密接に関わっている。教育とは関係ない
ngoだからこそ、生の声が聞けると考えた。

Seed to Table ~ひと・しぜん・くらしつながる~

要因分析（ハード）



アクセス



1. 距離



2. 安全面



3. インフラ



学校設備

メイン校



サテライト校



VS

教材・文具



文房具の不足

ハードへの対策



住民参加型学校建設

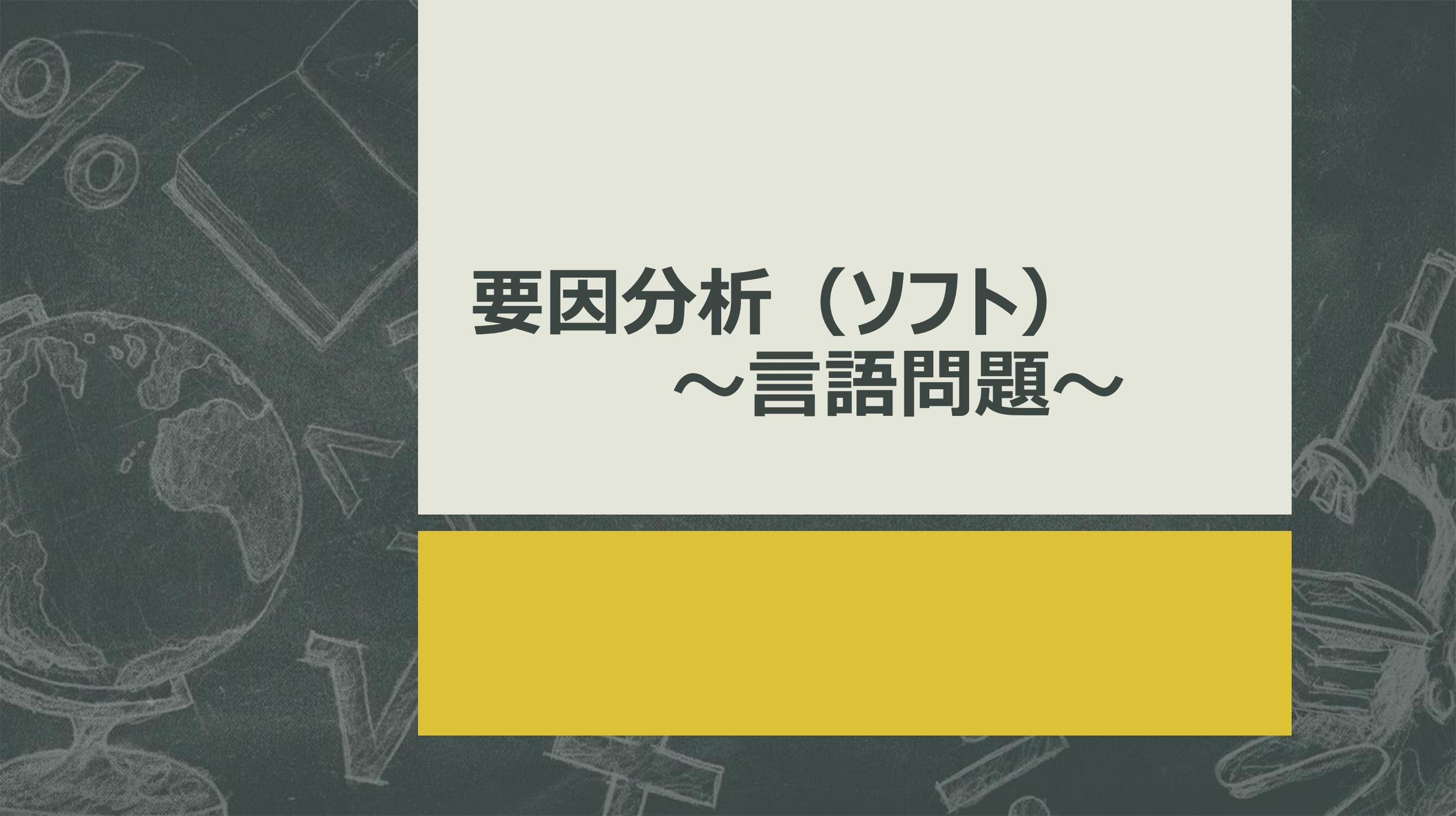


地域活性化と学校支援



「学校建設中」風景

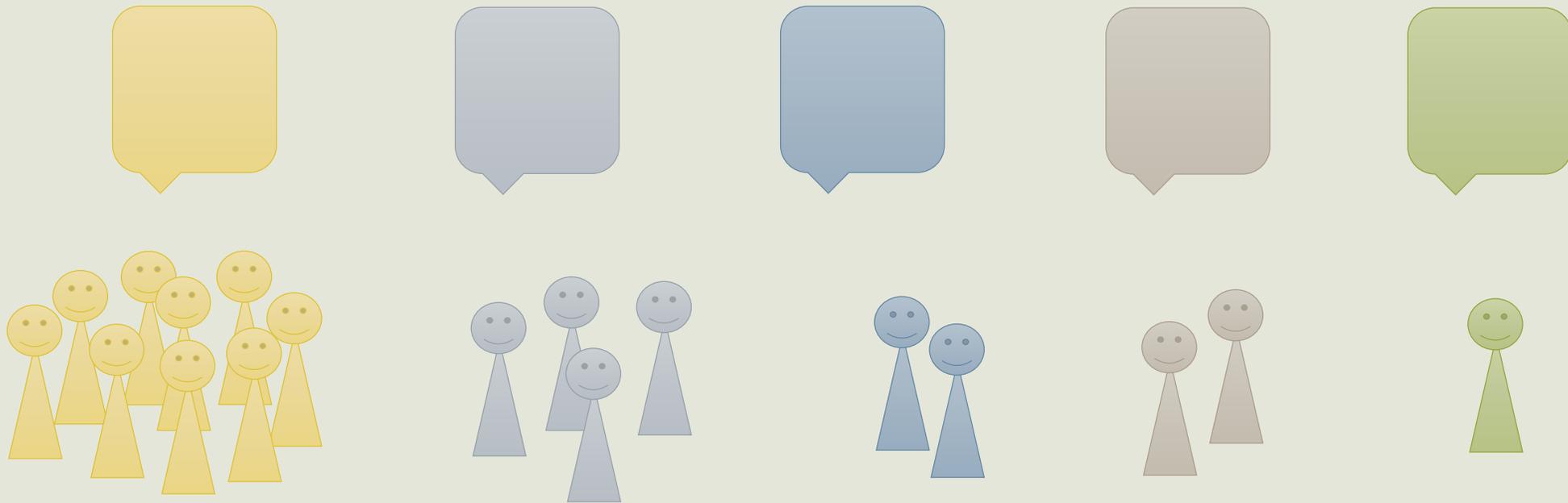
NGOは建設技術・資材を調達し、住民は仕事の合間に建設を行う。住民参加型の自発的な学校建設の好例である。特にベトナムでは女性参加が多く、学校建設においても女性が主体となって行っている。



要因分析（ソフト） ～言語問題～

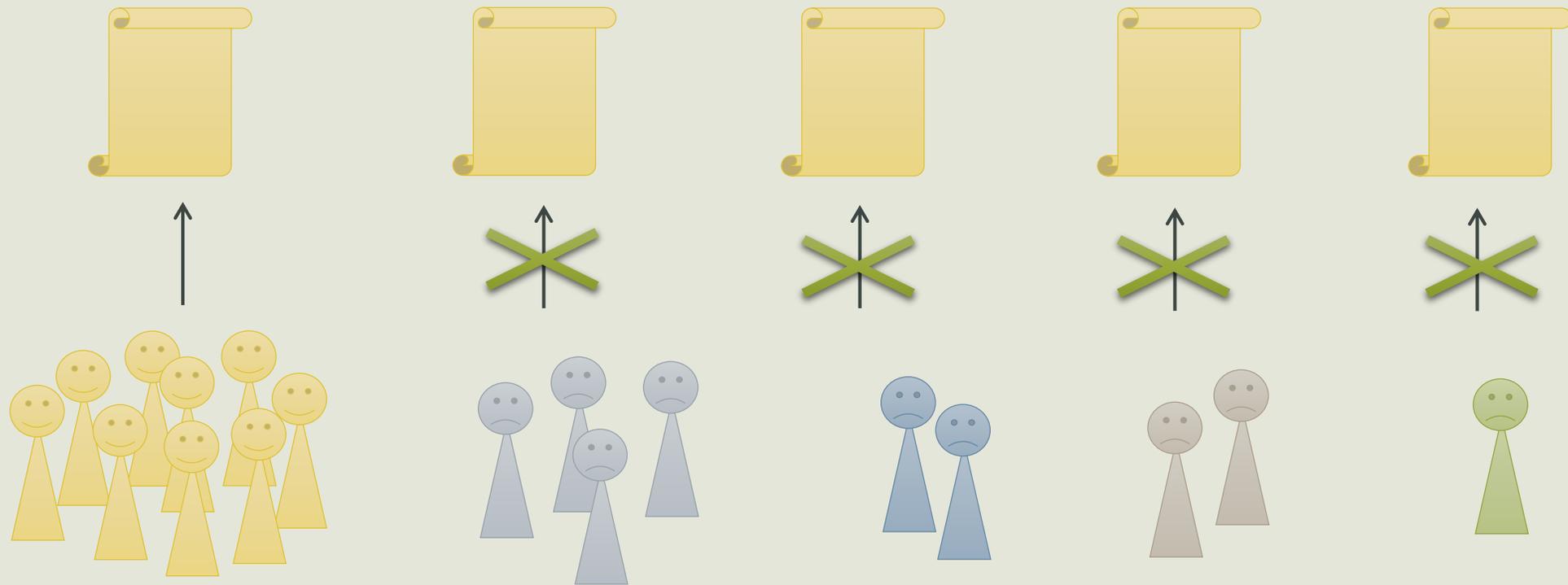
言語問題

- 日常生活で使う言語は民族によって違う



言語問題 仮説

- しかし、学校ではベトナム語だけ



言語問題 現状

- 言語問題が深刻だったのはベトナム戦争の時
 - 今は携帯電話・テレビ・インターネットが普及
- ⇒ ベトナム語との接触 ↑

(例)

携帯電話の普及率

100人に2.34人 (2004年) → 100人に147.66 (2014年)

インターネット普及率

100人に1.85人 (2004年) → 100人に39.49 (2014年)

出典 : Asian Development Bank "Basic Statistics 2004",
Asian Development Bank "Basic Statistics 2014"

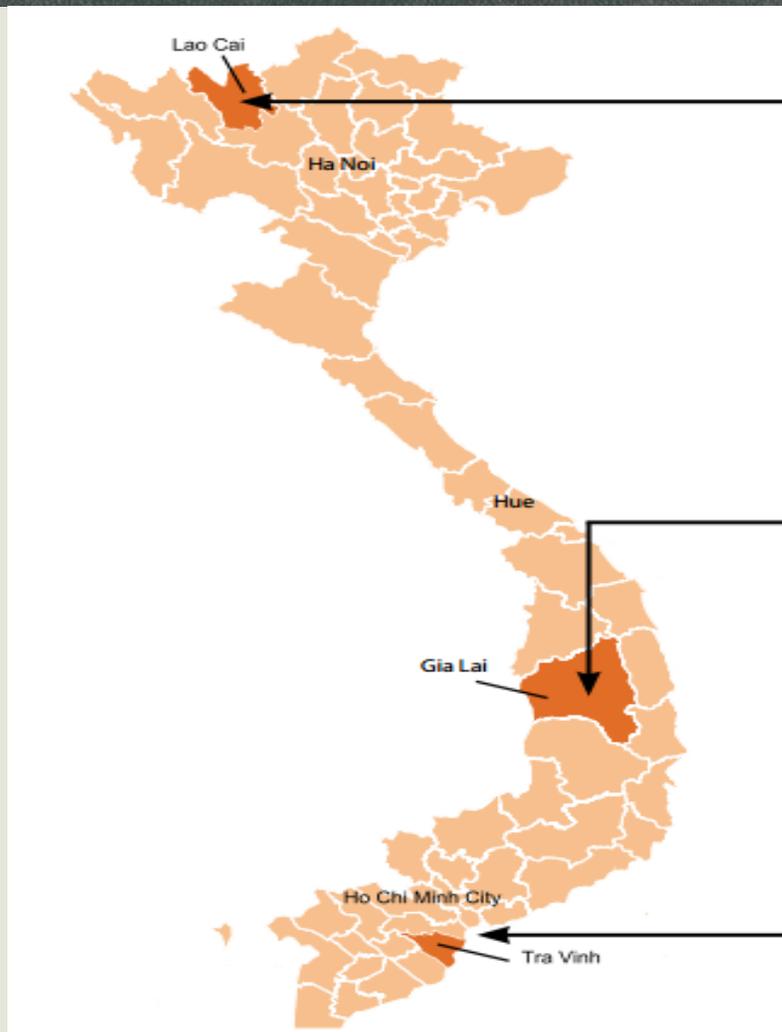
ユニセフの取り組み

- バイリンガル教育

Mother Tongue-Based Bilingual Education



对象地域

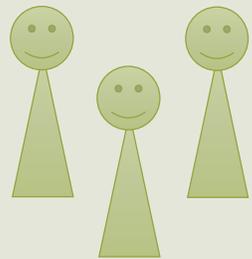
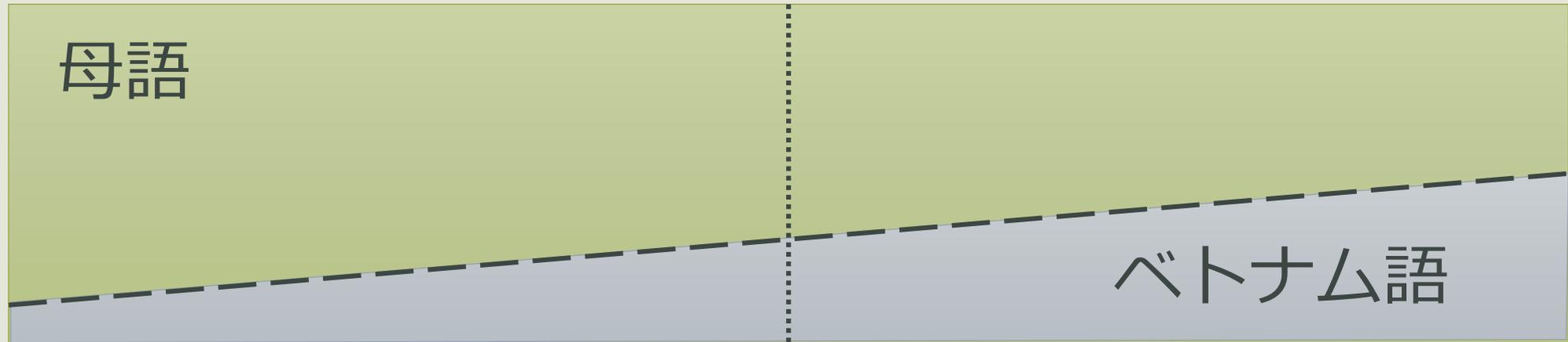


Lao Cai
Mong族

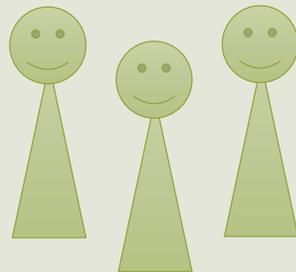
Gia Lai
Jrai族

Tra Vinh
Khmer族

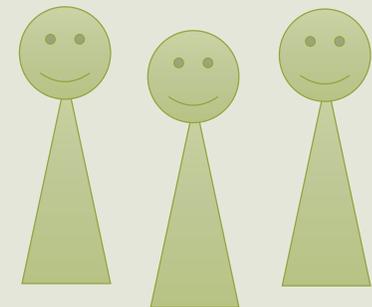
プログラム内容



乳幼児教育

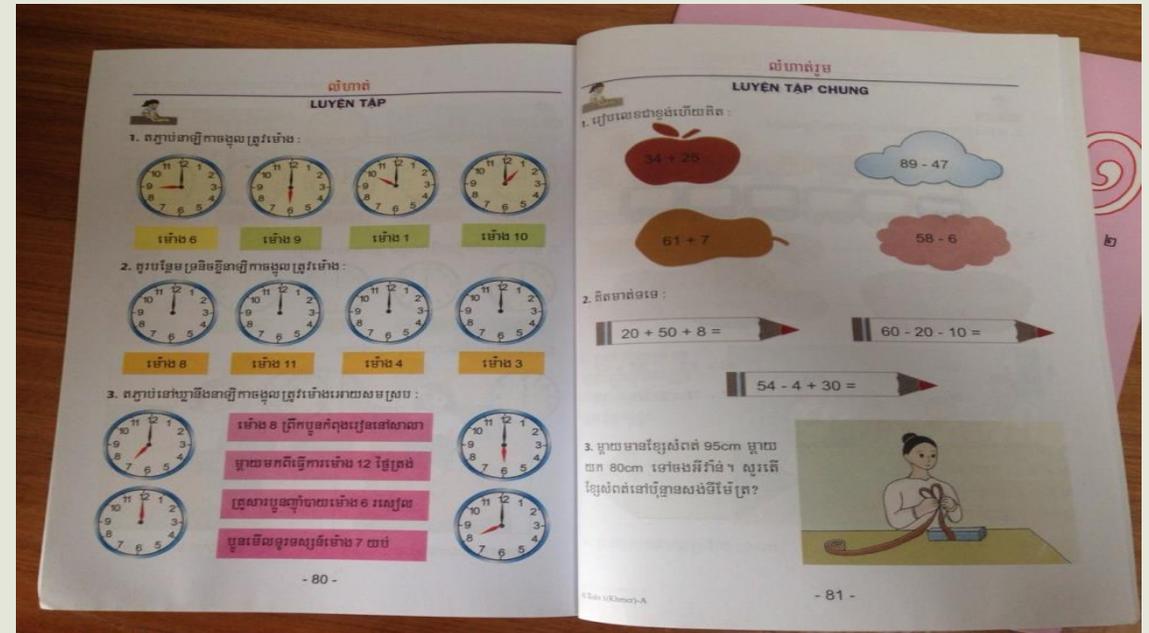


小学校2年



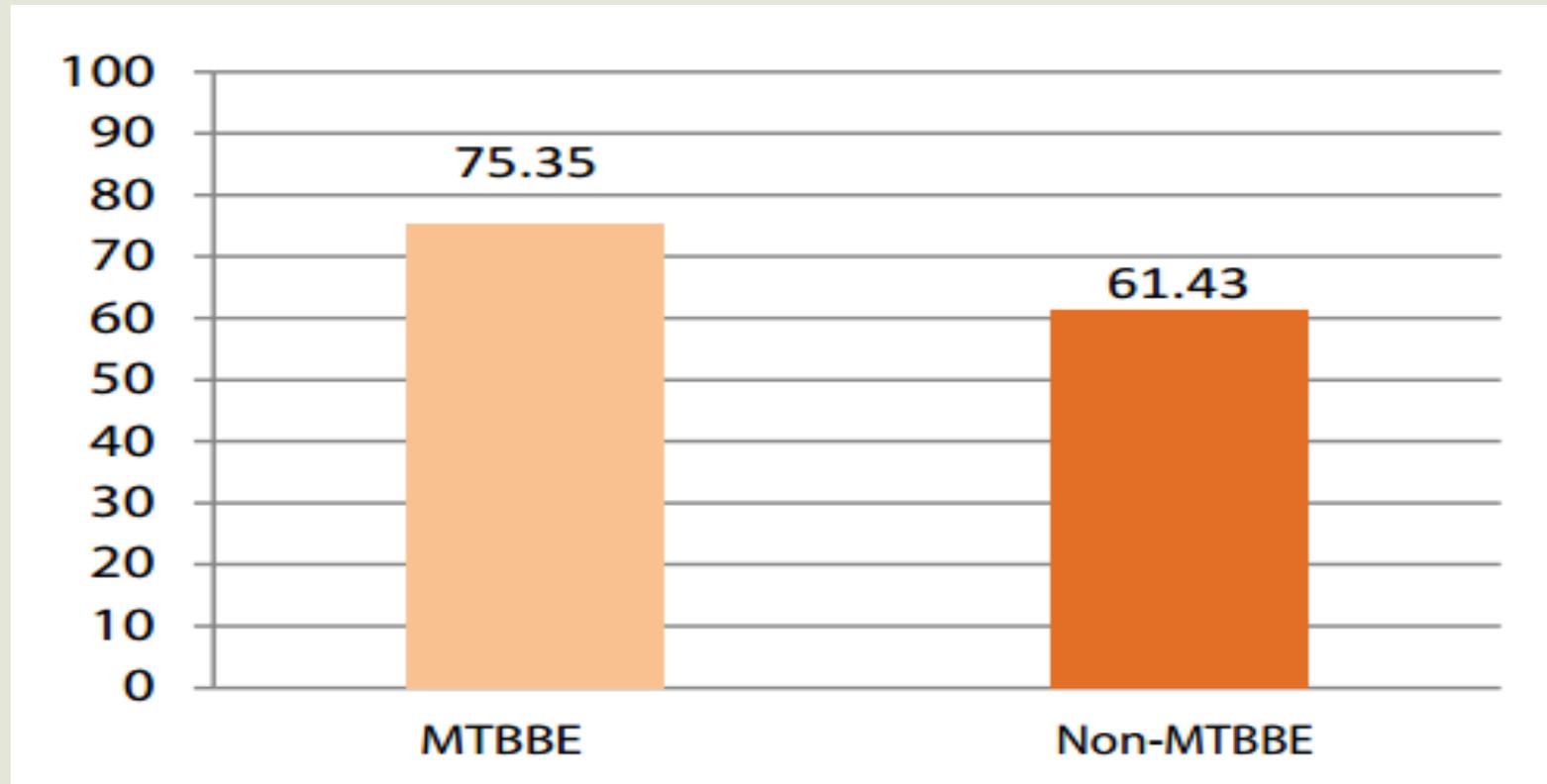
小学校5年

プログラム内容

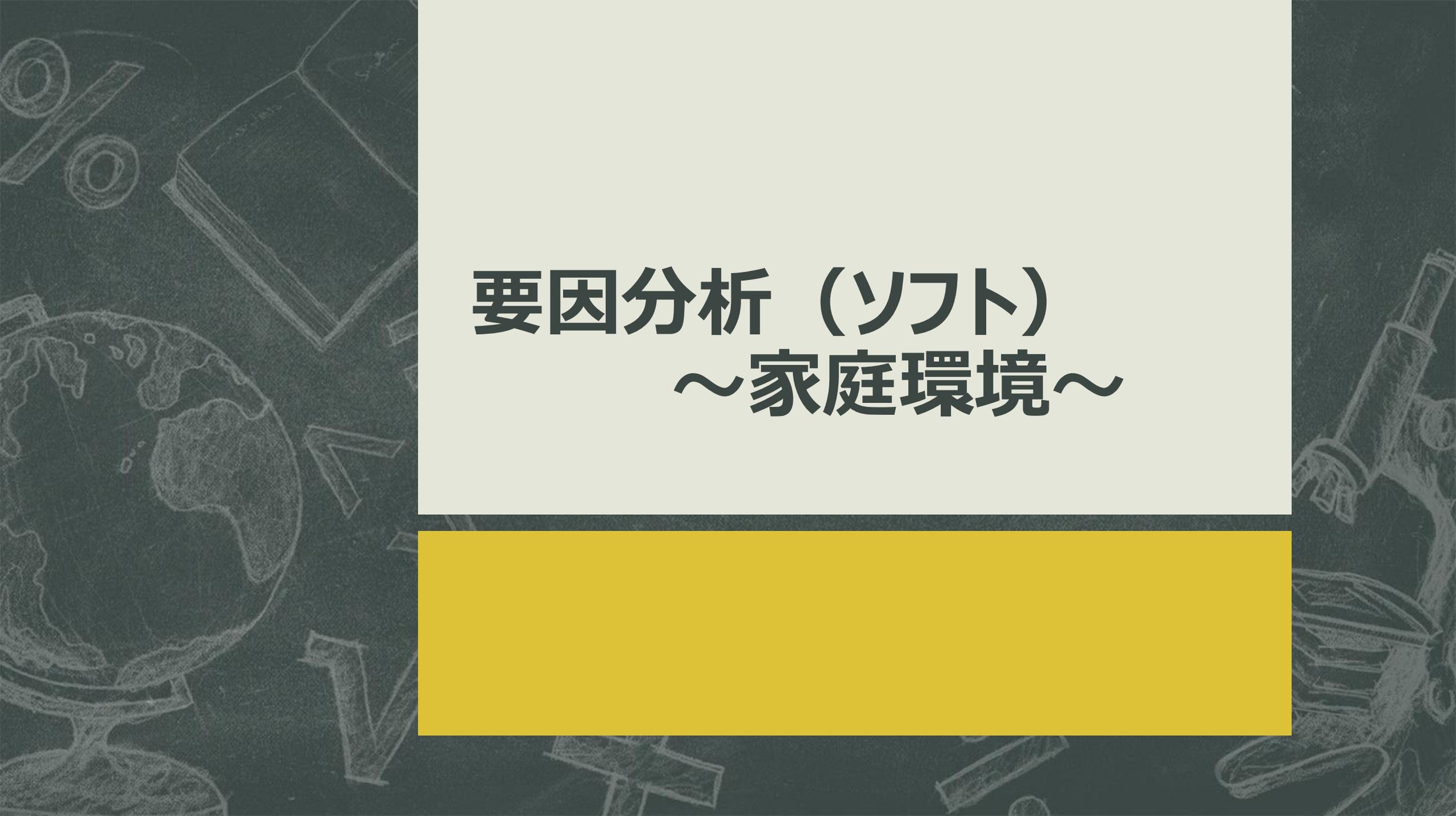


プログラム成果

プログラムに参加した生徒と参加しなかった生徒の成績の比較（算数）



出典： UNICEF “Action Research on Mother Tongue-Based Bilingual Education: Improving the equity and quality of education for ethnic minority children in Viet Nam”, 2009



要因分析（ソフト） ～家庭環境～



家庭環境 問題点

全体として教育に対する親の意識は高め

理由：自分が苦勞した経験から、子供には
きちんとした教育を受けさせたい
(学歴、高卒くらいのスキル)

しかし……



家庭環境 問題点

中には、子どもに教育を受けさせない親もいる

理由は多岐にわたるが…

ひとつに、**日銭を稼いでほしい**

生活に余裕がない農家が多い

※農家はとても、忙しい！

→女の子は畑の手伝い、男の子は水牛の世話をすることが多い

すると…



家庭環境 問題点

→留年の危機、特別クラス（ほぼ貧困層の子）を開いても、仕事を優先させて帰ってしまうことも…

親が家で教えることも困難

→忙しい、ベトナム語や内容が分からない、
勉強する場所が家がない



家庭環境 対策

Plan Japan

- 読み聞かせ会への参加
(長期休暇中に忘れてしまうのを防ぐ)
- 親の参加を促す

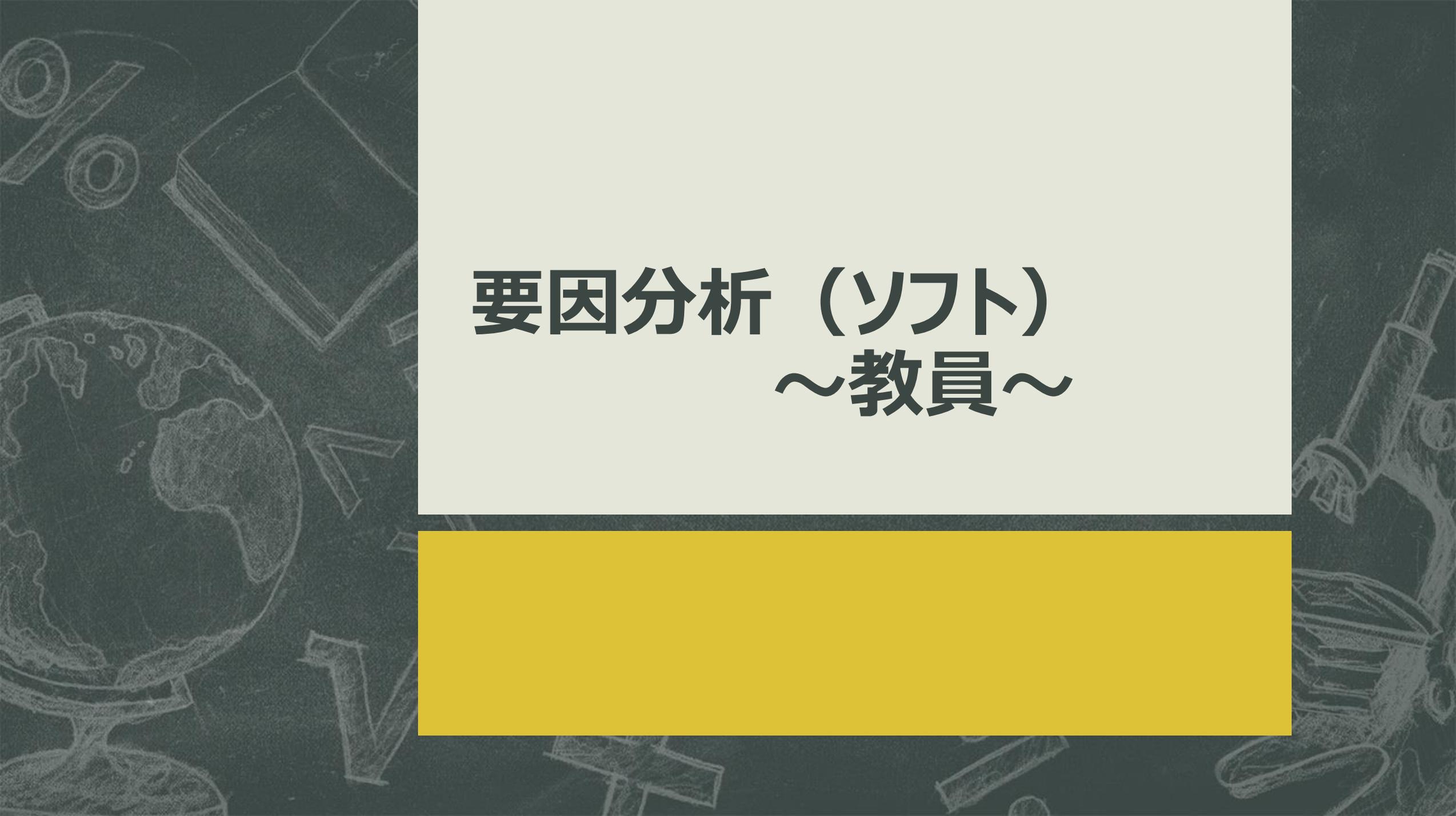


家庭環境 対策

Plan Japan

- ・学校の工事に親の参加を促す





要因分析（ソフト） ～教員～



教員 問題点

- 教員と生徒間のコミュニケーション～言語問題
- 高圧的でマニュアル通りの指導形態
- 公共の意識の低さ

教員 言語問題

生徒の理解を阻害、教員自
体のモチベーションも低下

→教員アシスタント
～Plan Japan



教員 指導方法

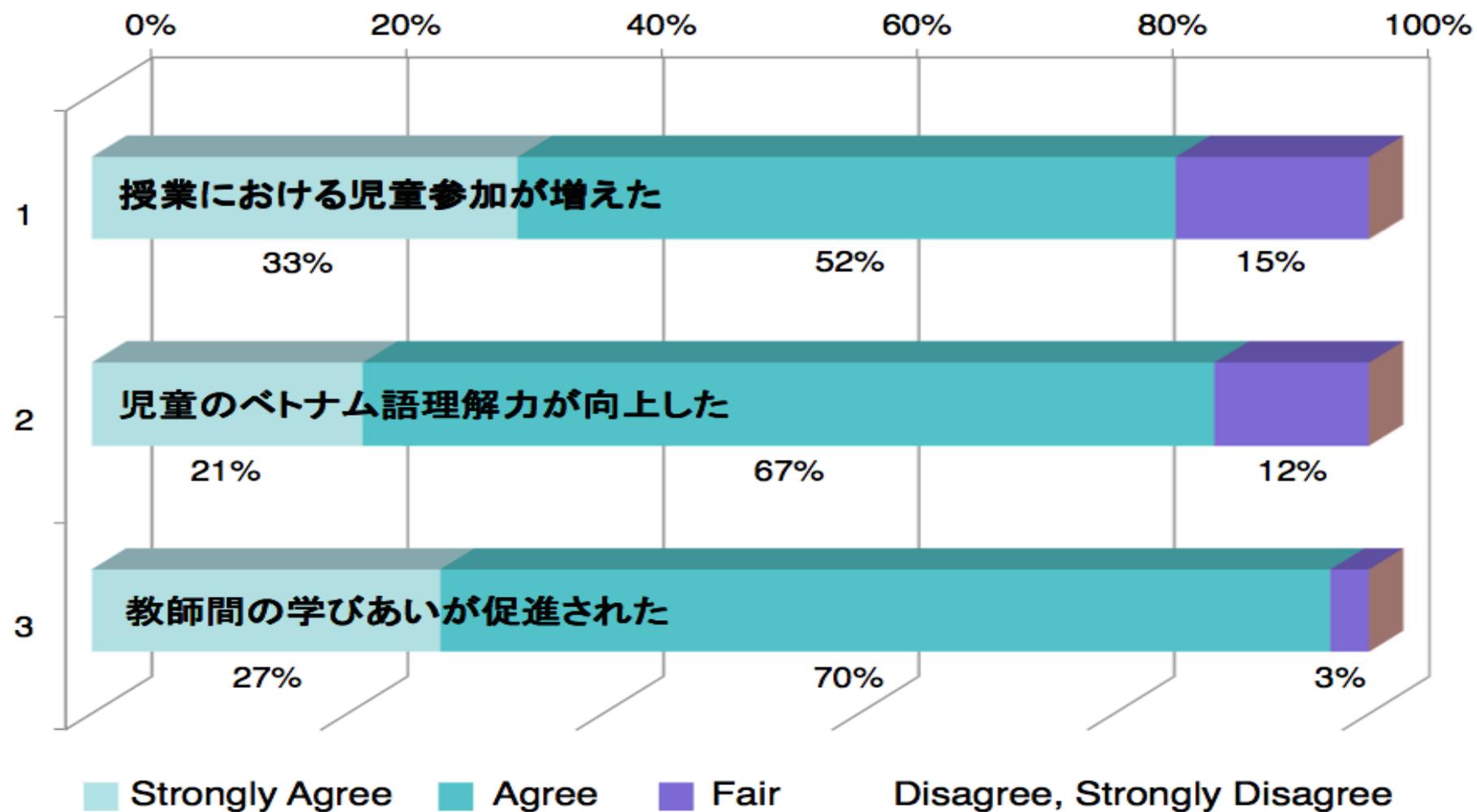
- マニュアルに頼った一方的な指導



- 教員対象トレーニング～Plan Japan
- 政府関係者の巻き込みにより、持続可能に



教師対象トレーニングの効果

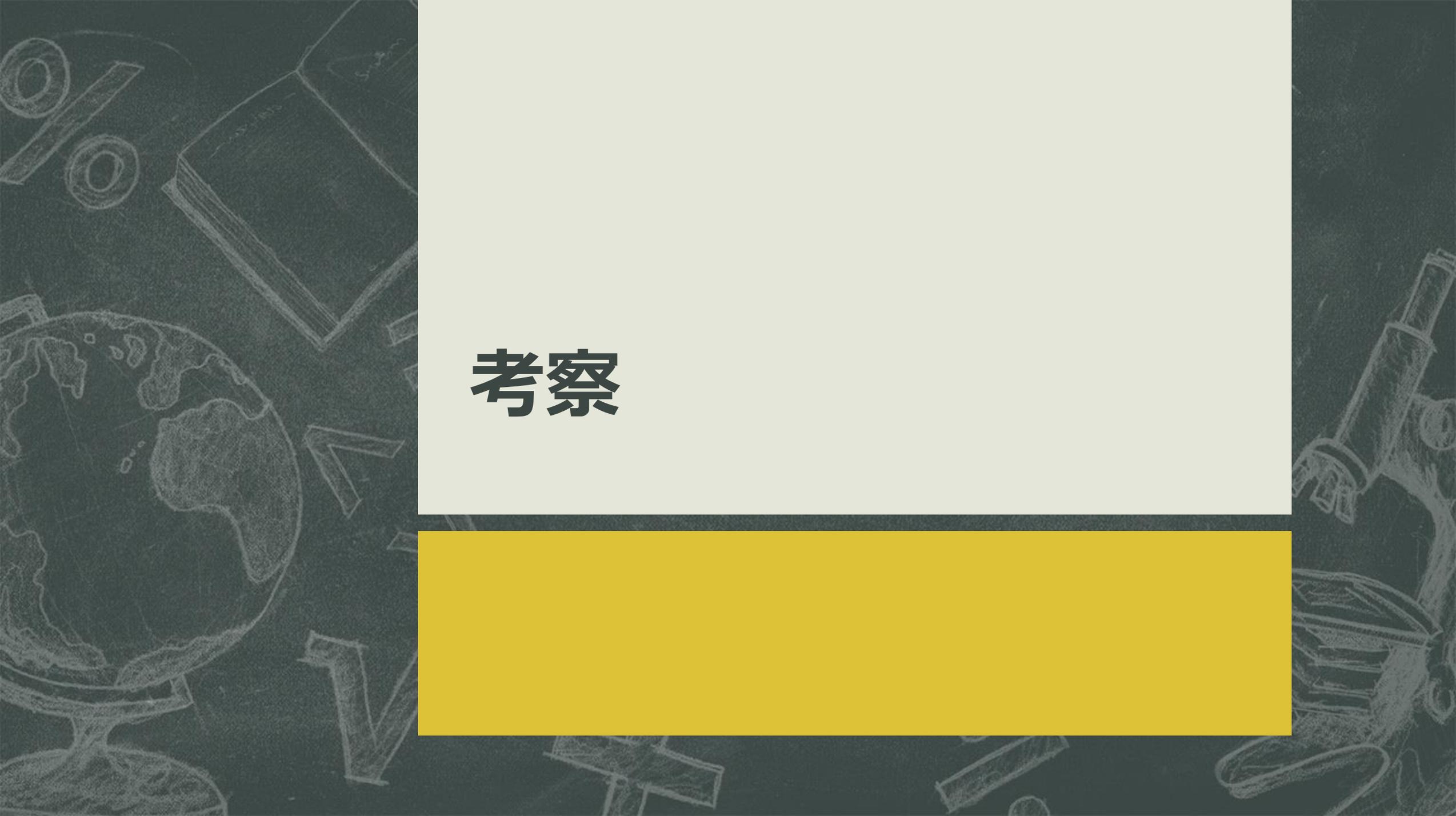


教員 公共の意識の欠如

- 生徒がわからなくても関係ないという姿勢

- 有償補講・差別

→未解決であり、社会全体の問題でもある。



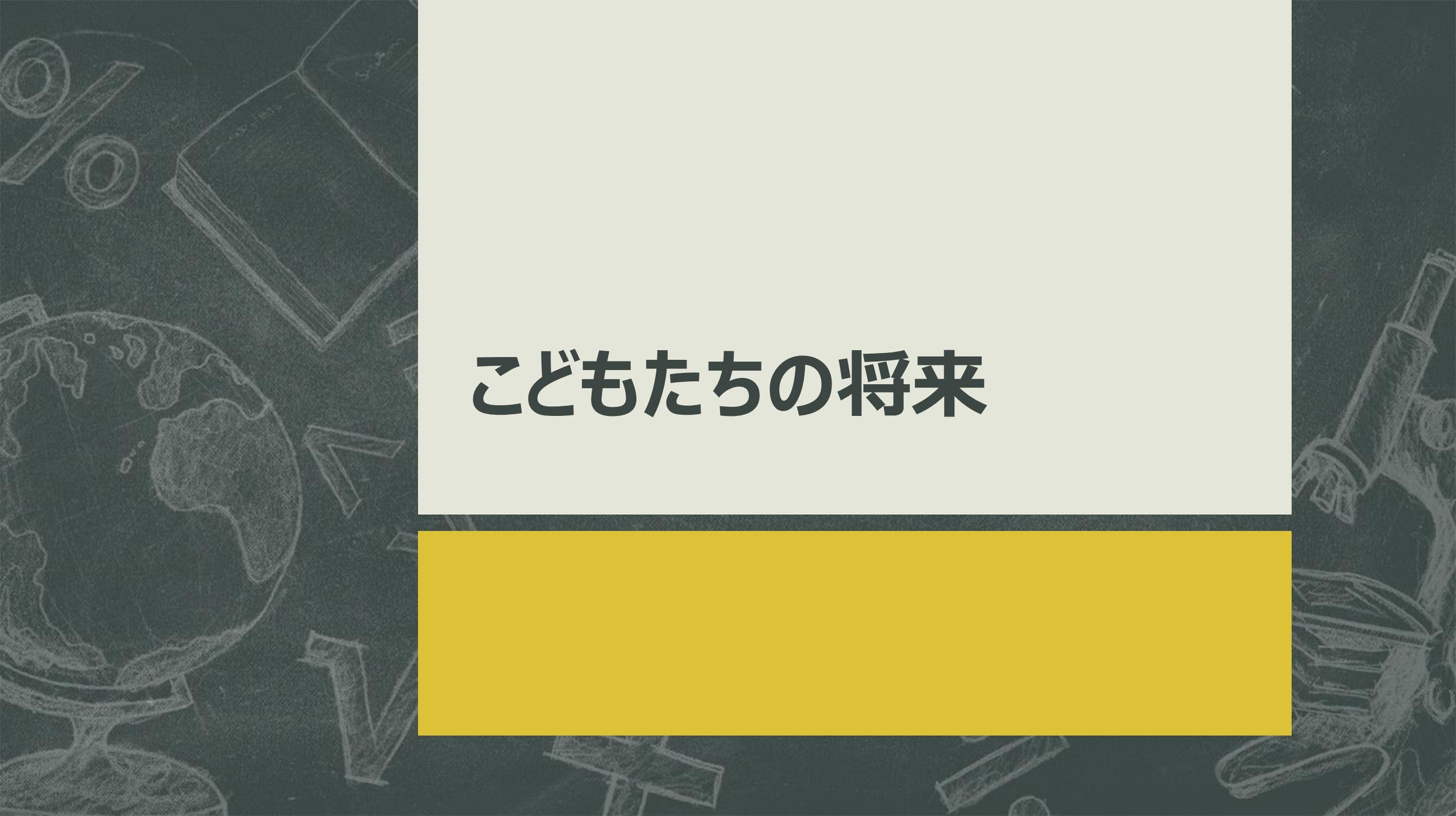
考察

考察

ベトナムの教育は比較的高水準であり、遅れているとされる少数民族の教育の問題にも国内、海外から様々なアプローチがされていることがわかった。

しかし…

「教育へのアクセスの先にある問題」



こどもたちの将来

就職問題

就職の際はコネ・金が必要
(とくに役所、民間は微妙)

→高学歴でも、なりたい職業につけない！

例) 4年制大学卒業して、バイクタクシー・レジ打ち

四年制大学より、個人経営で自立・安定できる、職業訓練学校に通わせることも

就職問題

語学能力や専門知識を身に着けた優秀な層→海外に流出

人づくりを最優先で進める必要あり

しかし、有限な資源の開発を優先している

例) ベトナムの良質な街路樹、中国への海産物



参考文献

- http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC11600.html
- 田中義隆、『ベトナムの教育改革～「子ども中心主義」の教育は実現したのか』
- 伊藤未帆、『少数民族教育と学校選択—ベトナム—「民族」資源化のポリティクス』